

編集後記

リオデジャネイロで開催されたオリンピックとパラリンピック。ブラジルの社会、政治、経済、そして人々の生活に関わる問題が重層的に起こっているがゆえに開催そのものが危ぶまれるとの報道が目立ったが、いざ大会が始まるとその華やかさにこれらの諸問題が隠れてしまった観がある。メガ（スポーツ）イベント特有の「波及効果」ととらえられなくもないが（同時に、メディアの報道姿勢というファクターも無視できない）、2020年を迎える過程において注意しなければならない点であると思われる。

一方、「難民選手団」として出場した選手の数はオリンピックが10人、史上初となったパラリンピックが2人。大規模化した現代のオリンピック、パラリンピックにおいてはごく小さな数といえるが、オリンピック運動の重要な理念のひとつである「平和の希求」に照らし合わせてみたとき、エポック・メイキング的な出来事であったといえるのではないだろうか。

今回の年報では、一橋大学スポーツ科学研究室のスタッフをメンバーとする科研費のテーマである「スポーツと多様性 (diversity)」に関わってそれぞれが独自の対象の選定やアプローチを試みている。また、「はじめに」において概要が紹介されているので詳細は割愛するが、日常的な共同研究の成果のみならず、さまざまな機会、バックグラウンドで進められた研究の成果を掲載している。

忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

これも「はじめに」で述べられているが、ご多忙にもかかわらず本年報への原稿執筆にご協力をいただいた溝口紀子先生、そして、以前、静岡文化芸術大学の同僚であったつながりから仲介の労を執っていただいた本学言語社会研究科小岩信治教授にはあらためて感謝申し上げたい。

これまでと同様、関根助手による編集実務をはじめとする有形無形のサポートによって、年報の完成に至ることができた。記して謝意を表したい。

本年報は、科学研究費助成事業基盤研究 (C)「グローバル化する社会におけるスポーツと多様性に関する研究」(研究代表者：尾崎正峰、課題番号 16K01697) の研究成果の一部である。

(尾崎 正峰)

一橋大学 スポーツ 研究

Vol.35

「スポーツと多様性」へのアプローチ

2016年12月1日 発行

編集・発行 一橋大学スポーツ科学研究室

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

TEL 042-580-8270

<http://www.soc.hit-u.ac.jp/~sport/>
